

第10回防災セミナー「ネパール ゴルカ地震からの復興：リスクをレジリエンスへ」を開催しました (2016/4/26)

テーマ: ネパール、ゴルカ地震、緊急医療対応

場所: 世界銀行東京オフィス (富国生命保険ビル10階)

2015年4月25日に起こったマグニチュード7.8のゴルカ大震災は、大規模な地滑りや雪崩、建物倒壊を引き起こし、多くの物的・人的被害を産みました。それから1年、ネパールでは、Build back betterな復興を目指し、これまで以上に構造的・非構造的対策の両面を取り入れた、より災害に強い地域づくりを目指しています。

今回のセミナーは、震災以前からインフラ整備や社会保障の側面から支援活動を行っている世界銀行東京事務所・世界銀行東京防災ハブと、東日本大震災の知見を生かすため学術的な調査・活動を行っている災害科学国際研究所 (IRIDeS) が共催しました。世界銀行東京オフィスには、IRIDeS と JICA からの発表者が参集し、またカトマンズともテレビ会議システムで繋げることで、ネパール政府や世界銀行ネパールオフィスなどから現地の声も聞ける体制としました。実践的防災学を目指す大学の役割、震災時の緊急医療対応の経験からの学び、国際医療と減災のリンク強化、社会保障と防災、災害に強いインフラの構築と国際協力など、幅広い報告内容となりましたが、よりレジリエントな社会の構築に向けての活動と留意点について多面的に確認することができました。プログラムは以下の通りです。(下線は、当研究所所属教員)

開会挨拶

- 塚越 保祐 世界銀行グループ 駐日特別代表

基調報告

- 今村 文彦 東北大学 災害科学国際研究所 所長
「国際的な防災・減災に向けた大学の役割：災害科学研究所の発足と活動」

講演

- ケム・バハドゥルカルキ
ネパール連邦民主共和国政府 保健研究学術会議長官・緊急医療チームコーディネーター
「2015年ネパール地震における緊急医療対応：我々は何を学んだか」
- 江川 新一 東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門 教授
「ゴルカ地震における人的被害に関する医学的分析」
- アヴァニ・デキシット 世界銀行グループ 社会・都市・農村開発・強靱性
グローバルプラクティス ネパール住宅再建事業 防災専門官
- ショティ・パンディ 世界銀行グループ 社会・都市・農村開発・強靱性
グローバルプラクティス ネパール住宅再建事業 社会保障専門官
「災害リスクを考慮した社会保護の仕組みづくり」
- 室岡 直道 国際協力機構 社会基盤平和構築部 都市・地域開発グループ都市・
地域開発第一課 企画役
「強靱な社会インフラを通じた災害に強い街づくり」

モデレーター

- 金田 恵子 世界銀行グループ防災グローバルファシリティ東京防災ハブ防災専門官

講演後、当研究所の井内加奈子准教授 (人間・社会対応研究部門) がネパールの復興全般に関してコメントを行い、その後フロアの参加者と共に約30分間の活発な質疑応答とディスカッションを行いました。当日は、約80名の官民学を含む国内外の専門家や学生の参加があり、活気のあるシンポジウムとなりました。

なお、当日の講演資料 PDF とビデオは、以下に掲載予定です。

日本語: <http://www.worldbank.org/ja/events/2016/04/26/>

resilient-reconstruction-in-nepal-transforming-risks-to-resilience

英語: <http://www.worldbank.org/en/events/2016/04/26/>

resilient-reconstruction-in-nepal-transforming-risks-to-resilience



(左上) 開会の挨拶

(右上) 講演の様子

(左下) 質疑応答の様子